

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標3	ふれあいと活力のあふれるまち
基本施策1	ともにつくる住みよい地域社会の実現
施策15	交通安全
基本方針	
交通安全施設の整備を進めるとともに、福生警察署などの関係機関と連携した交通安全対策を実施し、交通事故のないまちを目指します。	

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	市内における交通事故発生件数	294 件	(平成22年)	251 件	223 件	164 件	152 件		200件以下
指標2	交通安全教室の年間開催件数	12 回	(平成22年度)	17 回	18 回	16 回	16 回		20 回

3 施策を構成する事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成27年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	執行率	進捗状況	妥当性	効率性	有効性	方向性	
1	交通安全施設の整備	26,540,941	93.9%	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	自転車運転のルール・マナーの向上のための講習会の開催	477,100	95.8%	計画どおり完了	○	○	△	B	*
3	自転車駐車場の確保・整備	28,198,386	99.7%	計画どおり完了	○	○	○	A	

4 施策評価

①施策の評価

交通安全対策の一環として、市民からの情報提供や現地調査を実施し、道路反射鏡の新設、区画線の補修及び歩道の設置等を行い、交通安全施設の整備を実施した。また、福生警察署、交通安全推進委員会と連携して、自転車運転のルール・マナーの向上のため、講習会を実施し、交通事故防止に努めることができた。その結果、市内における交通事故発生件数は減少している。また、交通安全教室の年間開催数はほぼ横ばいで、平成27年度は、高齢者向け講習会が実施できず開催件数16件で目標18件に達しなかった。

自転車対策については、羽村駅周辺8箇所、小作駅周辺に4箇所、6,200台分の駐車スペースを確保し、良好な利用環境を維持するための整備・管理を行った。

②今後の方向性(改善への取組み等)

交通安全対策については、より有効な手法について情報収集に努めるとともに、福生警察署と連携を図りながら、交通安全思想の普及と交通安全施設の整備に努め、各機関と連携を図りながら交通事故の無いまちづくりを進めていく。

自転車対策については、自転車運転のルールやマナーの向上を図るとともに、自転車利用環境の整備に努める。

また、自転車駐車場については、有料化も含め総合的に運営方法を検討していく。

平成27年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1	交通安全施設の整備	不明 年	継続	自治事務	業務委託(一部)	
01	交通安全施設の設置箇所の調査	不明 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
02	区画線設置	不明 年	継続	自治事務	業務委託(全部)	
03	道路反射鏡設置	不明 年	その他	自治事務	業務委託(全部)	
04	市道第202号線歩道設置工事・用地取得	平成 24 年	その他	自治事務	業務委託(全部)	○
05		年				
関連課		防災安全課				
基本目標	3 ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	15	交通安全	事業番号	1

2.事業の概要

事業内容 歩道や道路反射鏡などの交通安全施設の点検整備を行うとともに、関係機関に対して改善を要望します。

根拠法令

条例

要綱等

3.成果指標

成果目標 道路施設の安全・快適な利用の提供。

4.活動指標

Plan【計画】	平成26年度(現況)	3か年計画		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業内容 事業量等	交通安全施設の設置箇所の調査・設置 区画線設置 延長6,291m 道路反射鏡 3箇所 市道第202号線歩道設置測量・設計委託 L=90m、幅=2.5m	交通安全施設の設置箇所の調査・設置 区画線設置 延長6,000m 道路反射鏡 5箇所 市道第202号線歩道設置工事・用地取得・地上物件補償 L=90m幅=2.5m	交通安全施設の設置箇所の調査・設置 区画線設置 延長8,000m 道路反射鏡 5箇所	交通安全施設の設置箇所の調査・設置 区画線設置 延長8,000m 道路反射鏡 5箇所

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成26年度(現況)		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1 人	4 H	1 人	4 H	1 人	4 H	1 人	4 H
主事・主任職	2 人	200 H	2 人	200 H	2 人	200 H	2 人	120 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成26年度(現況)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	6,943	37,575	7,120	7,248
人件費(係長職)	21	21	21	21
人件費(主任・主事職)	1,451	1,440	1,440	864
総事業費(合計)	8,415	39,036	8,581	8,133
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	10,400	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	13,000	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	8,415	15,636	8,581	8,133
財源内訳(合計)	8,415	39,036	8,581	8,133

③コスト計算

ア 市民 56,412 人における1人あたりのコストは、 692 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の 出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

当初5か所設置を見込んでいた道路反射鏡設置については、市民から要望のあった45箇所について現地調査を実施し、交通安全上特に必要な3箇所へ道路反射鏡を設置した。
消えかけた外側線等の白線についても、当初6,000mを見込んでいたが、対応が必要な5,305mについて引き直しを行い、歩行者及び車両の通行区分を明確にした。
羽村第三中学校から瑞穂町との行政界までの歩道未設置区間について、用地買収を行い歩道設置工事を実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	37,575,000	▲ 9,307,000	28,268,000	26,540,941	93.9%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
福生警察署からの意見や市民等からの要望を踏まえ、特に交通安全上有効な箇所へ道路反射鏡を設置し、道路環境の整備に努めた。 外側線等の摩耗の早い箇所については、単価契約により迅速な補修を行い、安全・安心に道路を利用できるよう努めた。	歩道設置により、武蔵野小・三中学区の通学路の安全対策を図ることができた。 道路反射鏡の設置や区画線の補修により、市内の交通安全対策を図ることができた。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性				
<table border="1"> <tr> <td>低</td> <td> B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討 </td> <td> A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当 </td> <td>高 [効率性]</td> </tr> </table>	低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高 [効率性]		A
低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高 [効率性]			
	↑					
	↓					
	低					

Action【改善】

事務事業から導かれる課題と今後の方向性

評価(所管課長)
歩行者、自転車及び自動車の安全確保を図るため、今後も、道路の交通安全施設の整備を進める。

平成27年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	市民生活 部			防災安全課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
2	自転車運転のルール・マナーの向上のための講習会の開催	不明	年 継続	自治事務	業務委託(一部)	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	3 ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	15	交通安全	事業番号	2

2.事業の概要

事業内容	各種講習会を開催し、子どもから高齢者まで、自転車運転のルール・マナーの向上を呼びかけます。
根拠法令	道路交通法
条例	東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例
要綱等	

3.成果指標

成果目標	交通安全講習の年間開催件数 18回 (平成27年度)
------	----------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成26年度(現況)	3か年計画		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業内容 事業量等	街頭指導(随時実施)	街頭指導(随時実施)	街頭指導(随時実施)	街頭指導(随時実施)
	小学生を対象とした自転車運転免許制度の運用(7回)	小学生を対象とした自転車運転免許制度の運用(7回)	小学生を対象とした自転車運転免許制度の運用(7回)	小学生を対象とした自転車運転免許制度の運用(7回)
	中学生を対象としたスクエアドストレート技法による交通安全教室(1回)	中学生を対象としたスクエアドストレート技法による交通安全教室(1回)	中学生を対象としたスクエアドストレート技法による交通安全教室(1回)	中学生を対象としたスクエアドストレート技法による交通安全教室(1回)
	高齢者向け自転車安全利用講習(1回)	高齢者向け自転車安全利用講習(2回)	高齢者向け自転車安全利用講習(2回)	高齢者向け自転車安全利用講習(2回)
	自転車マナーアップ指導(2回)	自転車マナーアップ指導(2回)	自転車マナーアップ指導(2回)	自転車マナーアップ指導(2回)
	羽村高校交通安全指導(3回)	羽村高校交通安全指導(3回)	羽村高校交通安全指導(3回)	羽村高校交通安全指導(3回)
	交通安全教室(2回)	交通安全教室(2回)	交通安全教室(2回)	交通安全教室(2回)
主婦層への交通安全指導(1回)	主婦層への交通安全指導(1回)	主婦層への交通安全指導(1回)	主婦層への交通安全指導(1回)	

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成26年度(現況)		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	60H	1人	60H	1人	60H	1人	60H
主事・主任職	1人	80H	1人	100H	1人	100H	1人	100H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成26年度(現況)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	498	498	498	498
人件費(係長職)	301	303	303	303
人件費(主任・主事職)	291	360	360	360
総事業費(合計)	1,090	1,161	1,161	1,161
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	1,090	1,161	1,161	1,161
財源内訳(合計)	1,090	1,161	1,161	1,161

③コスト計算

ア 市民	56,412	人における1人あたりのコストは、	21	円
イ 対象者	56412	人における1人あたりのコストは、	21	円
ウ 成果物	交通安全講習会	の出来高	19	回
		における1回		のコストは
				61,105

※ 対象者:

平成27年度【事後評価】

Do(実行)【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか)

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

高齢者を対象とした単独の交通安全教室は実施できなかったが、全体としての講習会には高齢者の方も参加していただいた。また、その他のすべての方を対象に、福生警察署及び羽村市交通安全推進委員会に協力をいただき、小学生自転車安全教室、中学生交通安全教室、自転車マナーアップ指導、羽村高校交通安全指導、交通安全講習会、主婦層への交通安全指導を行い、自転車の交通ルールの遵守やマナーの向上に向けて取り組みを行った。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	498,000	0	498,000	477,100	95.8%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
自転車運転の交通ルールの遵守及びマナーの向上に向けて、子どもから高齢者まですべての方に講習会を呼び掛けたが、高齢者に対する講習会が開催できなかった。しかし、主婦層への交通安全講習を開催することができた。また、運転者講習会については、年4回から2回に変更した。なお、参加者数については、例年とほぼ同数となる。	自転車運転の交通ルールの遵守及びマナーの向上に向けて、子どもから高齢者まですべての方に講習会を呼び掛けたが、高齢者に対する講習会を開催することができなかった。しかし、主婦層への交通安全講習を開催することができた。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
交通安全講習会の件数	18回	16回

Check【評価】

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

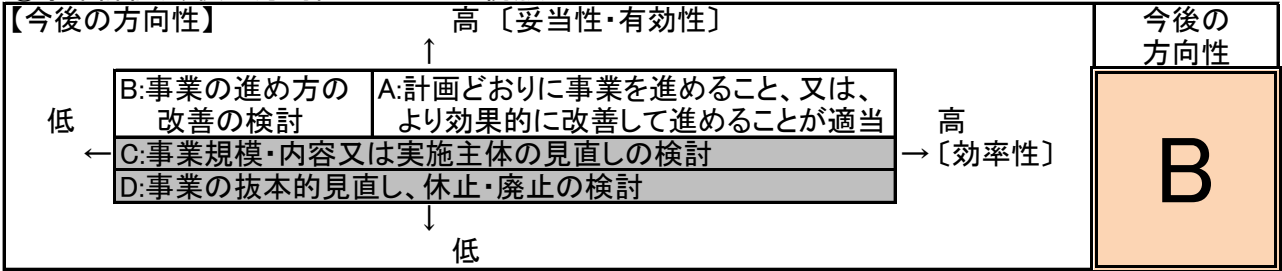
8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	<ul style="list-style-type: none"> ・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか 	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか 	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目標が達成されているか 	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

事務事業から導かれる課題と今後の方向性

評価(所管課長)

自転車を取りまく環境は、刻々と変化してきているため、従来実施している各種安全対策に加え、その時々にあった対策も必要となってくる。事業内容の更なる充実を図り実施していく。

平成27年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	市民生活部			防災安全課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3	自転車駐車場の確保・整備	不明	年 継続	自治事務	業務委託(一部)	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	3	ふれあいと活力のあふれるまち	施策区分	15	交通安全	事業番号 4

2.事業の概要

事業内容	自転車駐車場の確保・整備を行います。
根拠法令	道路交通法
条例	羽村市自転車等の放置防止に関する条例
要綱等	

3.成果指標

成果目標	市民が利用しやすいよう自転車駐車場を整備し、駅周辺の良好な環境維持を図る。
------	---------------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成26年度(現況)	3か年計画		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業内容 事業量等	自転車利用状況の調査	自転車利用状況の調査	自転車利用状況の調査	自転車利用状況の調査
	利用状況に対応した自転車駐車場の確保	利用状況に対応した自転車駐車場の確保	利用状況に対応した自転車駐車場の確保	利用状況に対応した自転車駐車場の確保
	羽村駅東口第一自転車駐車場の整備 市内自転車駐車場収容台数6,220台	市内自転車駐車場収容台数6,220台	市内自転車駐車場収容台数6,220台	市内自転車駐車場収容台数6,220台

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成26年度(現況)		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	120H	1人	120H	1人	200H	1人	250H
主事・主任職	1人	140H	1人	140H	1人	250H	1人	300H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成26年度(現況)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	29,484	28,284	28,284	28,284
人件費(係長職)	602	605	1,008	1,260
人件費(主任・主事職)	508	504	900	1,080
総事業費(合計)	30,594	29,393	30,192	30,624
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	30,594	29,393	30,192	30,624
財源内訳(合計)	30,594	29,393	30,192	30,624

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 台 における1台 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

自転車駐車場の利用者に対し、自転車駐車場の環境整備の強化に向けて、自転車整理員の適正な配置を行うとともに、自転車駐車場の放置自転車の撤去を行い、誰もが利用しやすい駐車場の確保に努めた。

道路用地に設置している羽村駅東口第1自転車駐車場(五ノ神4丁目)について、隣接地への住宅新築に伴い一部(20台分)の使用を中止したが、収容台数は十分に需要を満たしている。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	28,284,000	0	28,284,000	28,198,386	99.7%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
自転車駐車場を整備し、駅周辺の良好な環境を維持するために、羽村駅東口第1自転車駐車場(市道第103号線側道部)において、縁石ブロック等を撤去するとともに駐車場所に白線を引き、利用しやすい駐車場の確保を行った。	羽村駅東口第4自転車駐車場隣接箇所の羽村駅東部踏切の拡幅事業について、東京都と関係部署と協議を行い、自転車駐車場の確保に努めた。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
自転車駐車場収容台数	6,220台	⇒ 6,200台

Check【評価】

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
↓		
低	高	

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

Action【改善】

事務事業から導かれる課題と今後の方向性

評価(所管課長)
現在の駐車可能台数を確保しつつ、より利用しやすい環境を整えていく。羽村駅東部踏切の拡幅については、関係部署との調整を図りながら、利用者の利便性を向上させる。 また、自転車駐車場の有料化に向けて、引き続き検討していく。